第23回

学祖・下田歌子展

―下田歌子と清国留学生資料

清国留学生部の設置

下田歌子（1854-1936）は、欧米留学からの帰国後、女性の自立とともに、アジアの連帯と国家の礎としての女子教育の必要性をうったえていました。清国の女子留学生を受け入れた理由として、明治 37 年（1904）7 月の清国留学生第 1 回卒業式のなかで、日本が千余年も昔から、思想、学術、文化の各方面で、中国から「大いに啓発された事に対する御恩報じの一端」であると述べ、「貴国の家庭及び社会進歩のために、その貴き原動力とならん事を希望」すると、告辞を結んでいます。また「修身講話」のなかでも、両国共通の道徳理念を基本に、学問の男女平等と、優勝劣敗の世界情勢を論じ、纏足の弊を諷し、知徳体の三育一体論を展開しています。また女子教育の発展のため、女学会（婦人団体）、女学報（広報）、女学校の設立を提唱しています。その教育理念によって、明治 35 年清国女子速成科を設置します。

1.

私立実践女学校規則改正認可願（複製）〈1887〉

設立者下田歌子　東京府知事宛
原本：明治 38 年（1905）7 月 22 日　東京都公文書館所蔵
認可願・聴講生及清国女子速成科規定・寄宿舎規則ほか　1 綴

清国女子速成科規定では、2 ヵ年課程は、修身、会話、作文（ともに日本語）、算術、図画、唱歌、体操など 12 教科週 36 時間。1 ヵ年課程の速成科では、修身、教育、心理、歴史、地理、理科、日語（会話）、漢文（漢文誦読）など 9 科目週 28 時間。工芸速成科は、心理、歴史、地理の替りに、術科（編物・造花・図画・刺繍）が入って 9 科目週 28 時間となっています。清国留学生教育の特徴について、実藤恵秀氏は、その教授内容が、専門の学ではなく、上記科目のような普通学（中学程度）であり、正式な教育ではなく、速成教育であったと指摘しています。速成教育には、早く西洋に追いつこうとする清国の立場が反映されています。

2.

私立実践女学校分教場設置願（複製）〈1888〉

設立者下田歌子　　東京府知事宛　1 通
原本：明治 38 年（1905）7 月 23 日　東京都公文書館所蔵

明治 37 年（1904）7 月、最初の清国留学生の卒業式を挙行後、同年 11 月湖南省より、20 名の女子師範生の入学希望があり、翌年 7 月に、赤坂区桧町に洋館を借りて、新たな留学生部分教場を設置することになりました。下田校長の「修身講話」などは、留学生監督役の范源廉がテキストなしで、通訳をしたと言われています。范源廉は、辛亥革命後、袁世凱のもと、教育総長を勤めています。

3.

清国留学生寄宿舎及教室改修工事仕様書〈1131〉

［明治 40 年（1907）頃］　1 通
付：平面図（縮尺 1/100）　1 枚

明治 39 年（1906）2 月、赤坂桧町より渋谷の実践女学校に清国留学生部を移転しました。その日本館といわれた寄宿舎及び教室改修工事の仕様書です。

4.

支那留学生分教場日誌〈0750〉

昭和 18 年（1943）伝記編纂用　実践女学校原稿用紙　1 綴
原本：明治 38 年（1905）7 月 17 日～ 11 月 7 日　1 綴

この分教場日誌の一節に、「明治三十八年八月五日、本日学生秋瑾入校ス」とあります。

5.

清国留学生写真（複製）〈1132〉

原本：明治 38 年（1905）頃　成田安清氏所蔵
留学生部教師木村芳子に留学生が贈った写真　5 枚

木村芳子は、この後、北京粛親王家和育女学堂教師。結婚後は、成田姓です。

6.

清国留学生写真（複製）〈1869〉

原本：明治 39 年（1906）　本学図書館所蔵
留学生部舎監坂寄美都子・松元晴子と留学生 2 名　1 枚

清国留学生部設置にあたり、最大の難点であった言葉の問題のため、下田校長をはじめ、坂寄美都子、松元晴子、木村（成田）芳子、有村新六などの教職員が、中国語の学習を通して、意思疎通をはかろうとしていました。

7.

清国官費留学生学資一切契約書〈1130〉

実践女学校副校長青木文造・奉天省学務議紳載裕忱　署名
明治 40 年（1907）5 月 11 日　1 通（美濃判罫紙　2 枚）

明治 38 年（1905）に奉天省学務官熊希齢が教育視察のため来日した際、毎年 15 名の留学特約を結び、その約束履行のための契約書です。明治 40 年 5 月、奉天省から女子師範生 23 名が官費留学してきました。このため、渋谷校内の日本館が手狭になり、契約書によって、建築費の半額を奉天省が負担して、翌年 4 月、留学生部「松柏寮」の完成をみることになります。

8.

卒業証書台帳　清国留学生部（複写）〈3203〉

1 冊
原本：明治 37 ～ 44 年（1904-11）　本学学務部所蔵

明治 37 年（1904）7 月に、清国留学生として最初の卒業生陳彦安は、中国で刊行された雑誌『江蘇』第 3 期（光緒 29 年（1903）刊）に「勧女子留学説」（女子ニ留学ヲ勧ムル説）を発表しています。卒業後の大正 5 年（1916）に駐日公使章仲和夫人として来日し、下田校長と師弟の交わりを温められました。また卒業生李樵松は、湖南省で、私立啓明女学堂の校長となり、明治 41 年には、下田校長のもとに便りが送られています。

［凡例］
・本リーフレットは実践女子大学香雪記念資料館で開催した企画展「第 23 回　学祖・下田歌子展―下田歌子と清国留学生資料」（2024 年 4 月 1 日～ 5 月 10 日）に際し、発行したものです。
・本展は、元実践女子大学香雪記念資料館専門委員会・大塚宏昌委員（元実践女子大学図書館部長）が企画したものです。
・本リーフレットの章解説、資料解説はすべて、大塚宏昌が執筆しました。

9.

秋瑾肖像写真（複製）〈4676〉

2枚

原本：秋瑾記念館（中国浙江省紹興）所蔵

秋瑾は、浙江省紹興に生まれ、結婚して一男一女をもうけましたが、憂国の志強く、北京大学堂教授服部宇之吉夫人繁子の勧めにより単身日本に留学しました。日本政府の「清国留学生取締規則」に反発し、帰国しました。辛亥革命直前、徐錫麟事件に連座して、光緒33年（1907）紹興で刑死しました。女烈士として中国革命にその名をとどめています。日本語の伝記としては『秋風秋雨人を愁殺す　秋瑾女士伝』（武田泰淳著　筑摩書店　昭和43年刊）などがあります。

10.

白香詞譜〈0932〉

舒夢蘭白香甫撰

写本　1冊（32丁）

光緒16年（1890）　各行に朱印平仄

実践を去る時、舎監坂寄美都子に残した秋瑾遺愛詩集。当時の秋瑾について語った坂寄美都子談話筆記〈3001〉などの資料もあります。

清国に女子教師を推薦・派遣

下田歌子は、海外子女教育に志を秘めて長野県立高等女学校で教鞭をとっていた河原操子を、横浜の中国子弟のための学校「大同学校」（犬養毅名誉校長）に推薦し、さらに上海の務本女学校に日本人初の女子教師として送り出しました。河原操子は、その1年後に、中国駐日公使の推薦を受け、さらに内蒙古の喀喇沁王宮の女学堂である毓正女学堂の教師となりました。この縁で、下田歌子は、喀喇沁王妃の兄である清国粛親王より、後宮の和育女学堂の女子教師派遣を依頼され、実践女学校の木村（成田）芳子を送り出すことになります。

11.

服部繁子書簡　下田歌子宛〈2097〉

明治38年（1905）4月2日　北京より　1巻

「木村氏粛親王家教授に赴任好都合と存じ候。河原氏はいよいよ単身蒙古に赴かれ候。」

河原操子は、下田歌子の推薦により、明治35年（1902）8月、清国初の女子教育機関である上海務本女学堂に日本人最初の女教師として派遣されました。1年間の勤務の後、喀喇沁王が大阪で開催された内国勧業博覧会の見学のため来日し、帰国の途中、北京において、日本の内田公使に喀喇沁国に女学堂を設立したい旨の相談をしました。その推薦によって、操子は、内蒙古喀喇沁王府の毓正女学堂に赴任し、3年間熱心な教育を行いました。そのため王妃の信頼厚く、帰国の際には王府の重臣の娘である何薫貞、于保貞、金淑貞の3人が、実践女学校に留学することとなります。自伝『カラチン王妃と私』（河原操子著　芙蓉書房　昭和44年刊）に詳細が述べられています。留学生于保貞は、実践女学校に7年間学び、帰国後、喀喇沁王府の崇正学校の日本語担当教師を勤めました。

12.

下田歌子書簡　成田（木村）芳子宛〈1882〉

［明治42年（1909）］11月29日　実践女学校創立十周年記念絵葉書　1枚

（北京粛親王府の芳子に宛てて）「蒙古学生その後如何。将来は手を借りずして、女教開発を期待する。御子息様、御成人云々。」

成田芳子は旧姓木村。実践女学校の教師でしたが、明治38年（1905）、清国粛親王府後宮の家庭教師として北京に派遣され、夫人や王女たちの教育にあたります。現地で結婚し、一子をもうけますが、明治43年4月、現地で急逝しました。

13.

木村（成田）芳子肖像写真（複製）〈3268〉

1枚　原本：［明治40年（1907）頃］　本学図書館所蔵

14.

和育女学堂生徒成績物〈1134〉

［明治43年（1910）頃］　墨、鉛筆・紙　3綴、7枚

算術、日本語の書取、習字、図画等の粛親王夫人・王女たちの作品です。

15.

粛親王家和育女学堂校長教師交友学生（複製）〈1133〉

1枚　原本：明治41年（1908）夏　成田芳子遺児の成田安清氏所蔵

16.

粛親王正妃福晋肖像（複製）〈3269〉

1枚　原本：［明治40年（1907）頃］　堀旬子氏所蔵

17.

喀喇沁王妃と成田芳子（複製）〈4483〉

1枚　原本：明治39年（1906）　本学図書館所蔵

喀喇沁王妃は、粛親王の妹。その関係から、北京粛親王家和育女学堂において撮影されたものです。

18.

粛親王書蹟〈2638〉

下田先生法正

書幅　1幅　［明治30年代（1897-1906）］

19.

喀喇沁王書蹟〈2726〉

下田先生法正

書幅　1幅　［明治40年（1907）頃］

・［　］内の記載は推定事項です。
・展示資料はすべて、実践女子大学図書館の所蔵です。また、資料名の末尾に〈　〉で示した出納番号は、実践女子大学図書館『下田歌子データベース』（https://opac.jissen.ac.jp/repo/repository/shimoda/?lang=0）に対応しています。

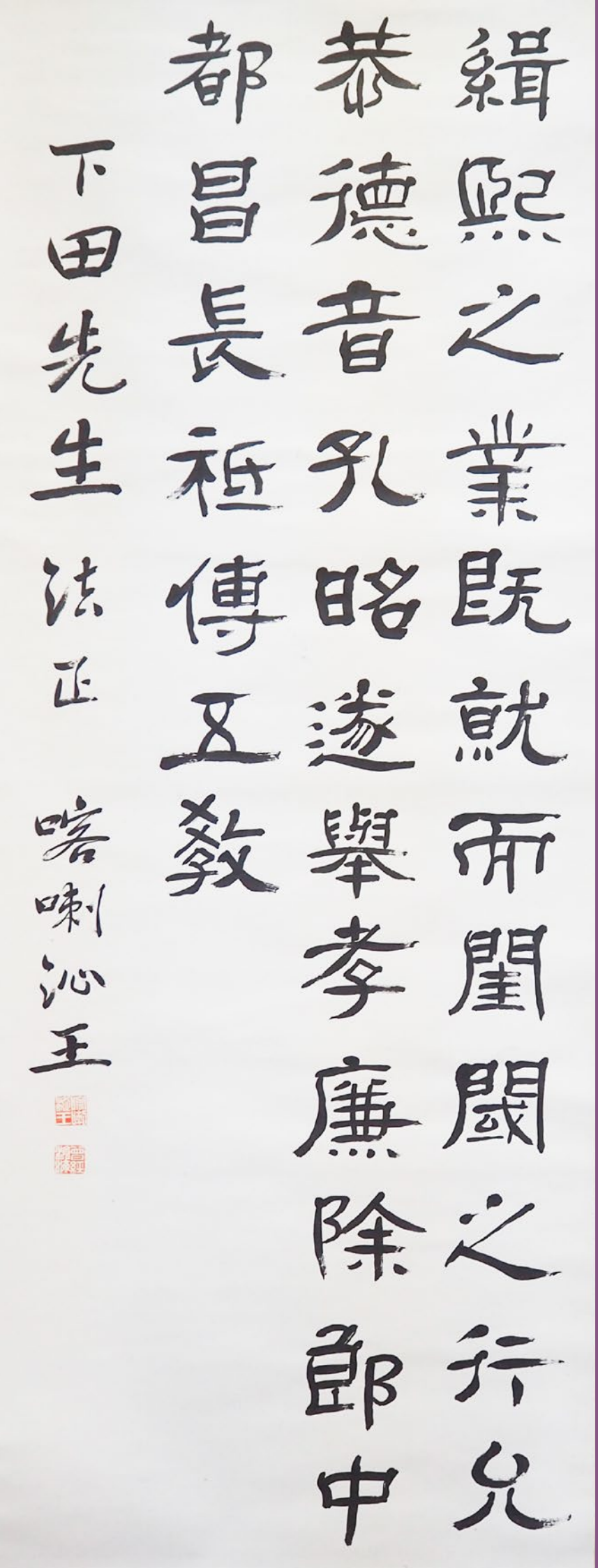

表　紙：《清国留学生写真》明治 38 年（1905）頃
裏表紙：《喀喇沁王書蹟》［明治 40 年（1907）頃］

［解説リーフレット］
第 23 回　学祖・下田歌子展
―下田歌子と清国留学生資料

発　行　日：2024 年 4 月 1 日
編集・発行：実践女子大学香雪記念資料館
〒150-8538　東京都渋谷区東 1-1-49
HP：https://www.jissen.ac.jp/kosetsu/